

科目名	企画科目（社会心理学）			学期	後期	単位数	2	担当者	松下歩睦
副題	-								
ナンバリング	N2-10-265	授業方法	講義	実務経験の有無			有	関連DP	1,2,3,4

授業の目的と概要

自己と他者・集団・社会の社会心理学の基礎的テーマを講義し、様々な社会心理現象をより細かく知ることによって理解を深める。自己と他者の分野では、社会における個人の自己のありかたや他者に対する認知や感情が研究されている。また、集団・社会の分野では、より応用的な研究が行われている。たとえば、対人関係を円滑にするための社会的スキル・説得的コミュニケーションなどがあげられる。この授業では、講義をはじめ、映画を通してワールドカフェ法などを行いながら、それらの研究を支える様々な理論的枠組みについて話し合いながら学んでいくことで理解を深める。

授業の到達目標

- ・社会心理学の基本用語について自分の言葉で説明が出来るようになる
- ・更に映画を通してより現実的に理解し、意見交換をしながらより多くの意見を取り入れる

授業計画

1. 社会心理学概論
2. 社会的認知の基礎：脳と認知
3. 対人認知：第一印象形成
4. 対人感情
5. 自己概念
6. 自己開示
7. 向社会的行動
8. 反社会的行動
9. 対人コミュニケーション（言語的）
10. 対人コミュニケーション（非言語的）
11. 説得的コミュニケーション
12. 集団の中の人間 リーダー
13. 集団の中の人間 葛藤
14. ネットワーク
15. まとめと振り返り

準備学習（予習・復習）・時間

- ・事後学修として、テキストの該当ページを読み、専門用語の意味をより深く理解する(45分)
- ・講義内容と講義で配布される資料の要点をノートに整理する(45分)
- ・事後学修として、授業で学んだことを日常生活とリンクさせ振り返る(45分)
- ・課題について調べてまとめ、発表の準備をする。発表後内容について各自で整理する(45分)

テキスト

山岸俊男（編集）『社会心理学キーワード』有斐閣,2001年

参考書・参考資料等

堀洋道（監修）『新編社会心理学[改訂版]』福村出版,2009年

学生に対する評価

授業参加の積極性と小レポート（70%）・各テーマ発表（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

- (C) 社会心理学の基本用語を覚えている。
- (B) 社会心理学の基本用語について、参考書やノートの言語を用いて、説明できる。
- (A) 社会心理学の基本用語について、参考書やノートを見て、自分の言葉で説明できる。
- (S) 社会心理学の基本用語について、自分の言葉で説明が出来、深く理解できている。

課題に対するフィードバックの方法

- ・質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う
- ・レポート発表のフィードバック方法は授業の中で指示する

その他

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

臨床心理士としての教育現場や相談機関での実務経験を生かし、集団や社会について体験的に学習可能な教材を選択し、机上の勉強だけにとどまらずより現実的に理解しやすい形で学習することで、具体的に実生活に活かすことが出来る能力を身につけさせる。